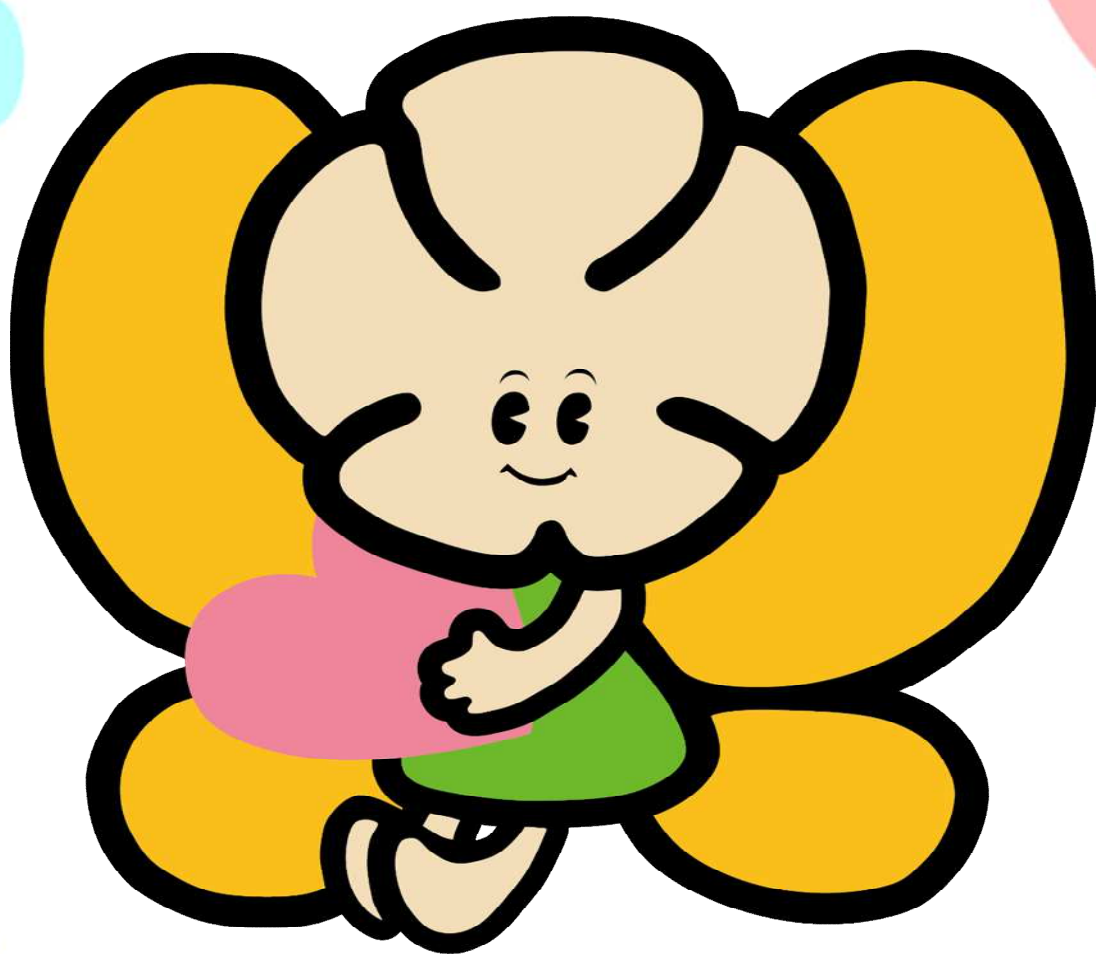


令和5年度
出雲すみれ保育園 要覧



〒693-0021

出雲市塩冶町970-2

TEL 0853-24-1122

1、出雲すみれ保育園 保育理念・方針・目標

■保育理念

「心身ともにたくましい子どもをめざして」児童福祉法第1条に定める児童福祉の理念に基づき運営を行う子育ての負担感の緩和を図り、安心して子育て・子育てが出来環境を整える。
集団の中で、一人ひとりの能力を最大限に発揮させ、豊かな人間性を持った子どもを育成する。

■保育方針

- ・保育に関わる者同士が協力したり、それぞれの専門性を発揮しながら、養護と教育の一体的な展開を図り、保育の内容の質を高め、充実させる。
- ・子どもの主体的な発達要求に応答する環境を豊かに整え、興味関心を持って環境にかかわり、チャレンジしたことへの充実感や満足感を味わわせ、年齢なりの心情、意欲、態度を養う。
- ・子どもの24時間の生活を視野に入れ、家庭との連携を密にして、積極的に子どもの発達過程に応じた育ちを築き、保護者の共感を得て養育力の向上を支援していく。
- ・子どもが育つ道筋や生涯教育を見据えた長期的な視野を持って、後伸びの力をつけ、小学校と情報交換をしたり、交流を密にしたりして積極的に連携していく。

■保育目標

- ・笑顔を絶やさず元気よく友だちと遊ぶ子どもを育てる。
- ・思いやりのある子どもを育てる。
- ・個性的な子どもを育てる。
- ・自分のことは自分でする子どもを育てる。
- ・仲間の中で自分の主張言うことができ、みんなで力を合わせることを大切にする子どもを育てる。
- ・自然に目を向けられる子どもを育てる。
- ・感動し、驚き、疑問をもち、考え、表現できる子どもを育てる。

■食育の推進

子どもの成長に合わせた手作りの食事

安心・安全な食事の提供

アレルギーや一人ひとりの個性に対応した食事を提供します。

- 「楽しく食べる」 ・人とのかかわり ・好きなものが増える
- 「健康づくり」 ・元気なからだ ・咀嚼能力の獲得 ・生活リズム
- 「食への興味」 ・栽培、収穫体験、クッキング
・伝統的な行事や郷土の食事
・季節感、旬を取り入れた献立

■保育の内容

子ども・子育て支援法、その他関係法令を遵守し、保育所保育指針に基づき、利用子どもの心身の状況に応じて、保育を提供します。

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う大切な時期です。

このため、保育園では、子どもが安心して楽しく毎日が過ごせるように、子ども一人ひとりの成長段階をふまえた計画を立て、環境を整えて保育をしていきます。

- 0歳児 特定の保育士と親密なかかわりを通して、信頼関係が芽生え、人とのかかわりを喜び、自発的に遊んだり自己主張を活発にできるようにします。
- 1歳児 一人ひとりの個性を大切に、甘えや依存の要求を満たし安心してゆったりとした雰囲気の下で快適に過ごす。
- 2歳児 保育士の見守りの中、基本的な生活習慣を身につけ、自分の思いを言葉で表現できるようにします。
模倣やごっこ遊びを通して、友だちとのかかわりを広げていきます。
- 3歳児 保育士との安定した関係の中で、基本的な生活習慣を身につけていきます。
生活や遊びを通し、いろいろな事を経験する中で友だちとの関わりを深めます。
- 4歳児 一人ひとりの個性を大切にしながら、様々な経験をを通して意欲的に取り組んでいきます。
- 5歳児 一人ひとりの個性を大切にします。
身近な動植物や自然事象への関心を深め、感動する心や命を大切にする気持ちを育てます
自ら考え、行動する力を育てます。

■保護者に対する支援

保育士等の専門性や、保育所の特性を生かしながら、保護者の気持ちを受け止めつつ、保護者が子どもの成長に気づき子育ての喜びを感じられるように努めていきます。

■地域との連携

- 保健医療における連携
- 食育の取り組みにおける連携
- 障がい、発達上気になる子どもに関する連携
- 虐待防止等に関する連携
- 災害等の発生時における連携
- 杉原助産師による、育児相談、母児ケアの委託業務
- お年寄りさんと触れあうための施設との連携

■保幼小連携

- 教職員同士の連携・協力体制の構築、合同研修の実施、子ども同士の交流等を通して、子どもの育ちや指導者支援方法をつなぐことによって、小学校での一人ひとりの子どもの学習や学校生活を充実したものにする。
- ・10月 オープンスクール ・11月～12月 交流会 ・11月就学時健診エスコート 等

2、施設の概要

■事業者

名 称	社会福祉法人出雲すみれ福祉会
所 在 地	出雲市塩冶町970-2
電 話 番 号	0853-24-1122
代 表 者 氏 名	理事長 石飛 昭文

■保育所の概要

施 設 の 名 称	出雲すみれ保育園
所 在 地	出雲市塩冶町970-2
連 絡 先	電話番号 0853-24-1122 FAX 0853-24-2265
管 理 者	園長 石飛 昭文
対 象 児 童	児童福祉法(昭和22年法律第164号)及び子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)の定めるところにより、保育を必要とする小学生未就学前子ども
利 用 定 員	0歳児 10人 1歳児 10人 2歳児 10人 3歳児 10人 4歳児 10人 5歳児 10人
認 可 年 月 日	平成16年4月1日
事 業 所 番 号	3220301000197

■登園における施設・設備等の概要

(1)施設

敷 地	敷地全体	2985㎡
	園 庭	1126㎡
園 舎	構 造	木造1階建
	延べ床面積	761.25㎡

(2)主な設備

設 備	部屋数	備 考
乳児室	1室	ひよこ組(0歳児クラス)
ほふく室	1室	りす組(1歳児クラス)
保育室	4室	うさぎ組(2歳児クラス) ぱんだ組(3歳児クラス) きりん組(4歳児クラス) ぞう組(5歳児クラス)
遊戯室(ホール)	1室	
調理室	1室	
多目的室	1室	
相談室	1室	
職員室	1室	
園長室	1室	

■職員の設定状況(令和5年6月1日現在)

	園長	主任保育士	副主任保育士	保育士	看護師
員数	1人	1人	2人	15人	1人
	栄養士	子育て支援員	事務員	学童指導員	外国語通訳
員数	2人	2人	2人	2人	1人

※保育士のうち2名が産後、育児休暇中のいます。

■保育時間

(1)標準保育時間

7:30(開所)	8:30	16:30	18:30	25:00(閉所)
← 通常保育時間 →			延長保育	

(2)短時間保育時間

7:30(開所)	8:30	16:30	18:30	25:00(閉所)
延長保育	← 通常保育時間 →		延長保育	

(3)休日保育時間(日曜日、祝日) ※休日保育申込書が必要

7:30(開所)	8:30	16:30	18:30(閉所)
← 休日保育時間 →			

■休業日

年末、年始(12月30日～1月4日)

3、土曜保育・休日保育について

■土曜保育

本園では、乳幼児期のお子様の発達にとって、家庭で家族と一緒に過ごす時間は、とても大切だと考えています。家庭で安心して過ごせる時間は、お子様の情緒の安定や信頼感の形成など、子ども達の健やかな成長につながるものです。土曜日など、お仕事が休みの日や、早めのお迎えができる日などは、できるだけお子様と一緒に過ごしいただくことをお願いいたします。

■休日保育

休日保育申込書と休日保育用就労証明書によって事前申請が必要になります。用紙等については保育士にお尋ねください。

休日保育申込書

休日保育申込書		令和 年 月 日	
出雲すみれ保育園 園長 石飛 昭文 様			
下記の理由のため休日保育を申し込みます。			
保護者名	住所: 氏名: 印		
園児名・年齢	園児名	歳	ヶ月
生年月日	平成・令和 年 月 日		
休日保育を申込み理由	父の理由:	就労 病気 その他()	
	母の理由:	就労 病気 その他()	
利用年月日(1ヶ月分)	令和 年 月		
平日に保育を利用しない日(1ヶ月分)	令和 年 月		
保育利用時間			
休日保育料	印		
要 不要	受付者印	主任	園長
金額 円			
集金方法			
都度 まとめて			

休日保育用就労証明書

休日保育用就労証明書(申告書)			
保護者氏名 _____			
月	就労口: _____		
就労場所	会社名: _____		
	住所: _____		
	電話: _____		
就労時間	日曜日: 時 分から 時 分まで		
	祝日: 時 分から 時 分まで		
上記の者の休日(日曜日及び祝日)の就労について、以上のとおり証明します。			
令和 年 月 日			
事業主(申告者) _____			
所在地(住所) _____			
代表者名(名前) _____ 印			
※この証明書(申告書)は、休日保育の利用に必要となります。			

休日保育用就労証明書は、保護者1人につき、1枚必要です

4、一月の保育日数について

当園は、休日(日曜日・祝日)も利用できることから、7日連続の保育の利用はできません。
毎月、保育希望調査を行います。分かる範囲でよろしいので、記入し、期日までに提出ください。

みほん②

平成29年度

6月保育希望日記入表 (組) 園児氏名 _____ 保護者氏名 _____

5月25日(木)までに提出してください。ご協力をお願いします。また提出される際は必ず一筆写しを取って置いてください。(保育園でもコピーします。)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	2 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	3 出・欠 お弁当 登園(:) 降園(:)
4 出・欠 お弁当・おやつ持参 登園(:) 降園(:)	5 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	6 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	7 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	8 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	9 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	10 出・欠 お弁当 登園(:) 降園(:)
11 出・欠 お弁当・おやつ持参 登園(:) 降園(:)	12 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	13 出・欠 お弁当の日 登園(:) 降園(:)	14 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	15 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	16 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	17 出・欠 お弁当 登園(:) 降園(:)
18 出・欠 お弁当・おやつ持参 登園(:) 降園(:)	19 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	20 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	21 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	22 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	23 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	24 出・欠 お弁当 登園(:) 降園(:)
25 出・欠 お弁当・おやつ持参 登園(:) 降園(:)	26 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	27 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	28 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	29 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	30 出・欠 夕食 要・不要 登園(:) 降園(:)	

*出・欠のいずれかを○で記入してください。この資料は保育士の配膳の目安になるものです。変更があった際は速やかに担当の保育士までご連絡ください。★登園・降園時刻をお知らせください。
※お迎えの時間が降園予定を過ぎる場合は必ずご連絡ください。★夕食を希望される方は要のほうに○をつけてください。延長保育につきましては別紙を参照してください。6月15日はお弁当の日です。夜間保育も給食がありませんのでお弁当の準備をお願いします。

5、利用料等

■利用者負担(月額保育料)

支給認定を受けた市町村に対し、当該市町村が定める保育料を支払うこととなります

■実費に係る利用者負担金等(領収証の必要な方は申し出てください。)

	内 容	金 額	備 考
用 品 代	0～1歳児入所時	1710円～	帽子、連絡帳、お便りファイル
	2歳児入所及び進級時	4060円～	上記及びお道具箱セット等
	3歳以上児入所及び進級時	1090円～	上記及びなわとび、シール帳等
休日保育料	休日保育を利用した場合	1050円	4時間未満の利用
		2100円	4時間以上の利用
※制度の変更により、両親就労の場合は保護者の方より料金はいただきません。但し、その他のために預けられる場合は上記料金が発生します			
一時預かり事業 利用料	一時預かり事業を 利用した場	900円	4時間未満の利用
		1800円	4時間以上の利用
	※出雲市では一時預かりの半日を4時間未満としています。例えば、午後からの利用であっても4時間未満であれば半額となります。但し、4時間未満であっても給食を食べるのであれば1日分の料金になります。		
延長保育料	延長保育を利用した場合	300円	18:31～19:30
		400円	～20:30
		500円	～21:30
		600円	～22:30
		700円	～23:30
		800円	～24:30
		900円	～25:00
※短時間保育利用者は、前1時間、後1時間につき300円、以下1時間ごとに100円増額の延長料金がかかります。 ※夜25時(夜中の1時)が完全閉園の時間です。25時を過ぎられた場合は別途料金を集金させていただきます。(25:01～25:30 1000円 以下30分ごとに1000円増額)			
給食代	延長保育利用時の給食の提供	300円	1回につき
	2号認定子どもにかかる給食費	6500円	3歳以上児一月料金
	2号認定子どものうち、副食費が免除される子どもに係る給食費	1000円	3歳以上児一月料金

※上記とは別に、保護者会費があります。(入所児に限る)

6、利用の開始及び終了に関する事項

■利用の開始

出雲市が行う利用調整により内定が決まる。

■利用の終了

当園は、次の場合は、保育の提供を終了します。

- (1) 子ども・子育て支援法施行規則(平成26年内閣府令第44号)第1条の規定に該当せず、市町村が利用を取り消した時。
- (2) 支給認定保護者から保育所利用の取り消しの申出があった時。
- (3) 市町村が保育所の利用継続が不可能であると認めた時。

7、デイリープログラムと年間行事予定

■デイリープログラム

	0歳児クラス	1～2歳児クラス	3～5歳児クラス
7:30 開園	順次登園 健康観察(検温) 自由遊び	順次登園 健康観察(検温) 自由遊び	順次登園 健康観察(検温) 所持品整理 自由遊び
9:00	片付け おやつ(1歳以上)	片付け おやつ	片付け 朝の会
9:30	あそび	あそび・活動	様々な活動 あそび
10:30	離乳食(中期・後期) 睡眠		
11:00	離乳食(完了)	給食準備 給食	
11:30		歯みがき	給食準備 給食
12:00	睡眠		歯みがき
12:30		午睡	
13:00	睡眠	午睡	午睡
15:00	起床 体操(踊り) おやつ(1歳以上) 健康観察(検温) 歌の会	起床 体操(踊り) おやつ 健康観察(検温) 歌の会	起床 体操(踊り) おやつ 歌の会
16:00	あそび 順次降園	あそび 順次降園	帰りの会 健康観察(検温) あそび 順次降園
18:30	延長保育 順次降園	延長保育 夕食 順次降園	延長保育 夕食 順次降園
25:00:00 閉園			

※0歳児は、一人ひとりに合わせて、授乳、食事、睡眠をとります。

※5歳児の午睡は小学校入学前にはしなくなり、別室にて活動を行います。



■年間行事予定

4月	入園・進級の会、保護者会総会	10月	親子運動会(全クラス)、秋の遠足、内科健診
5月	5月節句の会、内科健診	11月	七五三会、秋祭り
6月	歯科検診	12月	発表会(全クラス)、歯科検診
7月	七夕会	1月	
8月		2月	節分会
9月	お月見会、お泊まり保育	3月	ひな祭り会、ありがとうの会、保育証書授与式

※毎月 誕生会、避難訓練、身体測定、ECC英語活動(5歳児)、よさこい踊り(3~5歳児)をしています。
 ※近隣の中学校の職場体験、高校の保育実習、大学(短大)・専門学校の保育実習の受け入れも行って
 います。

8、入園に際してのお願い

■登園、降園、送迎に関すること

- 登園、降園時は必ず保護者の方の責任において送迎してください。お迎えがいつもと違う方の場合やいつもより遅くなる場合には、事前に連絡をください。
- しっかりと朝食をとり、9時までに登園しましょう。(園には朝食を持って来ないようにしましょう。)
- 毎日、健康状態(顔色、発熱、食事の量、便の状態等)をよく観察し、気になる事がある場合は保育士にお知らせください。
- ご家庭の都合又は病気などでお休みをされる時は、9時までにご連絡をください。また、お子様が病気の場合は、詳しくお知らせください。特に、感染症(麻疹・風疹・水痘・おたふく風邪・流行性結膜炎・インフルエンザ・RSウイルス・溶連菌等)の場合は、その旨も連絡をお願いします。
- 登園・降園時には、フェンス、及び玄関の鍵を必ず閉めてください。(お子様の安全の為)
- 登園・降園時に車から離れる際には、エンジンを止め、鍵をするか貴重品を必ずお持ちください。(以前、盗難事件がありました)
- 保育園、駐車場が道路に隣接していますので、送迎時には交通安全に十分に気をつけてください。
- 登降園管理システム
登園時と降園時には、玄関に設置してあるiPadにおいて操作をお願いします。

■保護者の連絡先について

- 保護者の連絡先は常に明確にしておいてください。
- 出張、研修等で勤務先に不在の場合には、事前に連絡先を担任または事務室へお伝えください。
- 連絡は原則として「緊急時の連絡先」記載の順に連絡しますので、ご了承ください。
- 連絡先等に変更があった場合には、速やかにお知らせください。

■家族状況の変更について

- 家族状況に変更があった場合は、速やかに出雲市役所または、保育園に変更連絡をお願いします。

■保育園からの連絡等に関して

- 0歳から2歳児クラスは、保育での状況や家庭での状況を相互に連絡しあうために、「れんらくちょう」を活用します。体温、食事、遊び、排便状況等、お子さんの様子をできるだけ詳しく記入してください。気になることがある場合には、口頭でもお知らせください。
- 3歳以上児クラスにも、「れんらくちょう」を用意しています。必要に応じて家庭からの連絡事項を記入してください。
- 月に1回、園だより、保健だよりを発行します。月の行事や共通連絡事項等をお知らせします。
- 日々の連絡もありますので、連絡帳やおたより等の確認をお願いします。
- 提出物は、必ず期限までに提出してください。

■持ち物等について

●毎日持ってくるもの

- ・通園かばん……手提げかばん(0歳児～2歳児。)リュック(3歳児～5歳児)
- ・連絡帳……園指定の物をご購入いただきます。
- ・手拭タオル……引っかけるヒモをつけてください。
- ・給食袋……縦25cm×横20cm程度の袋。中にコップ、歯ブラシを入れて毎日持ってきます。
- ・汚れ物入れ袋……ビニール袋に大きく名前を書いてください。忘れた時は園でお貸しします。
翌日には園に返すのも含めて持ってきて下さい。
- ・水筒……お茶を入れて持ってきてください。
- ・給食用エプロン(0, 1, 2歳児)……毎日清潔な物を持ってきてください。
- ・おむつ……かごの中に10枚程度あるようにしてください。
- ・ガーゼ、手口拭きタオル……3枚程度あるようにしてください。
- ・シール帳(3歳以上児)……子どもが毎日シールを貼ります。また、身体測定の記録を書きます。
- ・おたよりファイル……おたよりがある時に挟んでお渡します。翌日には持ってきておいてください。



●保育園に常備しておく物

- ・着替え……園の生活、活動で衣類が汚れることがありますので、着替え(上着、ズボン、下着)を各4枚ずつ位お預かりします。
 - * 0, 1, 2歳児は保育園のかごに入れて保管します。
 - * 3歳以上児は衣類袋を用意していただき、その中に入れて個人のロッカーにて保管します。(衣類袋…縦40cm×横30cm程度の物を用意してください。)
- ・午睡用布団……敷布団と夏場はタオルケット、冬場は毛布を持ってきてください。
それぞれ前面に大きく名前を縫い付けてください。
- ・おしりナップ(0, 1, 2歳児)……排便の時に使います。
- ・哺乳瓶(0歳児)……1本保育園でお預かりします。

●その他

- ・汚れた服は毎日持ち帰ります。翌日、持ち帰った枚数分の補充をお願いします。
- ・3歳以上児の衣類袋は週末に持ち帰ります。中を点検し、補充して翌週初めに持ってきてください。(毎日のお迎え時にかご及び衣類袋の中を点検し、補充をお願いします。)
- ・午睡用布団は週1回持ち帰ります。シーツ・タオルケット・毛布等を洗濯して清潔にして持ってきてください。(但し、しらみ等発生したときには、毎日持ち帰って洗濯をお願いすることがありますのでご了承ください。)
- ・保育園のホームページにいろいろな写真を載せています。お子様の保育園での写真を載せることもありますので、あらかじめご了解いただきたいと思います。尚、載せて欲しくない方は申し出てください。
- ・入園の前には「入園前健康診断」を受けていただきます。
- ・ならし保育として、入園後の一週間位は原則として半日保育となります。お子様の様子を見ながら、徐々に時間を延ばしていきます。
- ・入園時提出していただく物

- * 児童票
- * 入園前健康診断個人票
- * ハンドタオル2枚
- * 雑巾2枚
- * ティッシュ1箱



9、食事について

乳幼児期の健やかな心身の発達と成長のためには、毎日の食事が大切な役割をはたします。当園の給食は、入園している子どもの成長に合わせた手作りの食事を提供しています。

乳幼児の栄養生理面、個人的な発達の特徴などの特性を理解し、安全面に充分配慮して実施しています。

■給食内容について

0歳児	2回食から離乳食を開始します。ミルク+離乳食、1歳以上+おやつ2回(午前9:30/午後3:30位)
1・2歳児	昼食+おやつ2回(午前9:30/午後3:30)
3歳児以上	昼食+おやつ1回(午後3:30)

■夕食について(別途料金をいただいています。利用料等の欄をご覧ください。)

事前の申し込みにより夕食を提供しています。家庭での夕食をイメージし、バランスの摂れた食事を心掛けています。

■給食の展示について

毎日の給食を展示しています。どうぞご覧ください。



■献立について

献立の内容は、月初めに献立表を配布いたします。材料の都合で変更することもあります。夕食との組み合わせなど、ご参考にしてください。

■お子様の栄養相談について

給食や栄養について、ご意見、質問等ございましたら、栄養士、調理員までご相談ください。

■アレルギー対応食について

- ・アレルギー対応食は、保護者からの申し出により医師の診断書や指示書に基づいて行います。
- ・給食の提供は、集団給食の中で除去食を基本とします。
- ・除去の状況や内容に変更があった場合は、指示書の再提出をお願いします。
- ・除去内容によっては、お弁当を作ってくださいことがあります。
- ・除去食の対応を円滑かつ効果的に行うため、園長及び栄養士・調理員・看護師・担任は相互に十分連携し、協議しながら行います。

10、保健と健康管理

■園で行う健康診断、諸検査について

項目	内容	回数及び時期
健康診断	内科健診	年2回(5月、10月)
	歯科検診	年2回(6月、1月)
身体測定	身長、体重	毎月1回

■保育中に具合が悪くなった場合には、保護者にお知らせします。

- 症状によっては、早めのお迎えをお願いします。
- 発熱の場合、38℃以上でお迎えをお願いします。
(厚生労働省感染ガイドライン 参照)



■急な怪我の場合には、園にて病院へお子さんをお連れします。

医師の処置が必要と判断される場合は、保護者へ連絡の上、保育園で医療機関を受診します。保護者に連絡がとれない場合は、お子さんの身体の安全を優先させ、当保育園が責任を持って対処しますのであらかじめご理解願います。受診後に、保険証を医療機関にお持ちいただくことになります。



■保育園での与薬について

てください。

感染症名	登園のめやす
流行性角結膜炎(はやり目)	医師により感染のおそれがないと認められるまで
溶連菌感染症	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
伝染性膿痂疹(とびひ)	皮疹(ひしん)が乾燥していること。医師の指示に従う
突発性発疹	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと
伝染性紅斑(りんご病)	全身状態が良いこと
手足口病	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸症状が消失し、全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
带状疱疹	すべての発疹がかさぶたになってから
マイコプラズマ肺炎	発熱や激しい咳が治まっていること
ヘルパンギーナ	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること

* 受診結果については、速やかに保育園へ連絡してください。

■予防接種について

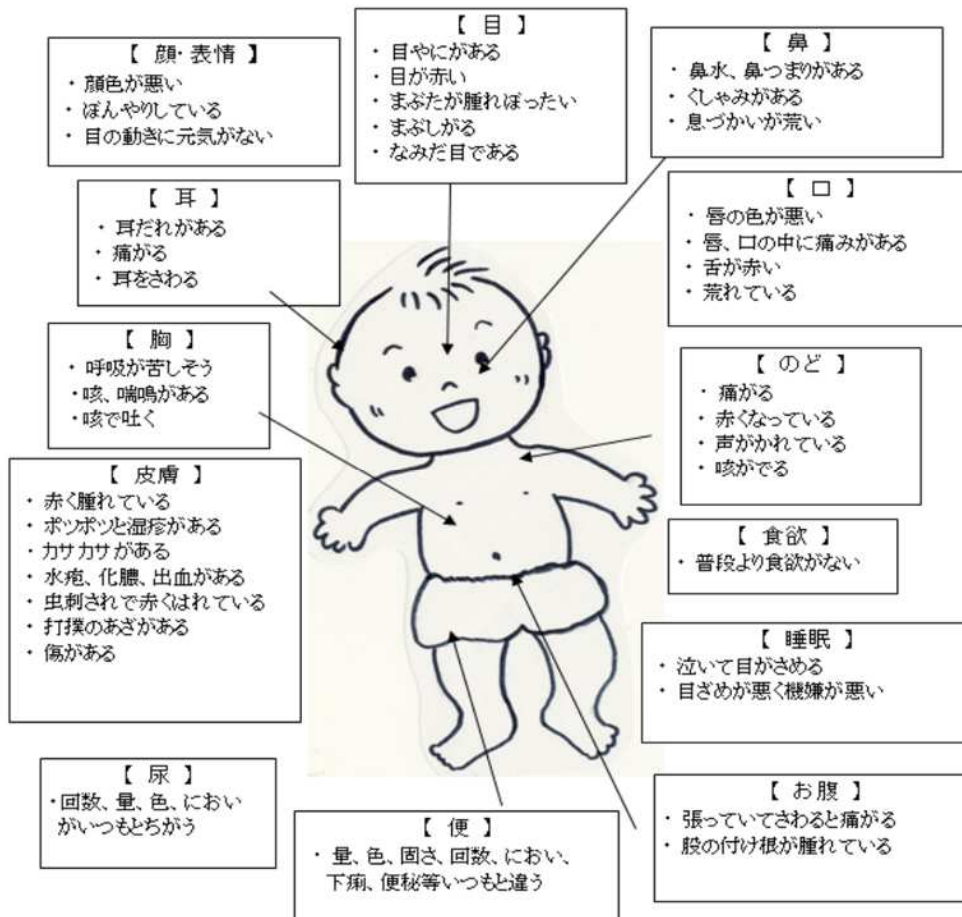
予防接種は体調の良い時に計画的にお受けください。予防接種を受けた後は、観察が必要ですので、ご家庭で保育できる時に接種を受けてください。接種後やむを得ず登園される場合は事前に相談ください。また、受けた予防接種の項目を園にもお知らせください。

■嘱託医

- 小児科 どれみクリニック 院長 羽根田紀幸先生
住所 出雲市塩冶町1530-1 TEL 0853-21-1262
- 歯科 塩冶歯科診療所 院長 庄司 聖先生
住所 出雲市塩冶有原4-79 TEL 0853-23-3205

<参考> 保育所における感染症ガイドラインより

◎子どもの症状を見るポイント



◎発熱時の対応

※ 発熱については、あくまでも目安であり、個々の平熱に応じて、個別に判断する。

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<p>* 発熱期間と同日の回復期間が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝から37, 5℃を超えた熱とともに元気がなく機嫌が悪い。食欲がなく、朝食・水分が摂れていない ・24時間以内に38℃以上の熱が出ていた又は解熱剤を使用している場合。 <p>* 1歳以下の乳児の場合(上記にプラスして)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平熱より1℃以上高いとき(38℃以上あるとき) 	<p>* 前日38℃を超える熱が出ていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱が37, 5℃以下で元気があり機嫌が良い。顔色が良い ・食事や水分が摂れている ・発熱を伴う発疹が出ていない ・排尿の回数が減っていない ・咳や鼻水を認めるが増悪していない ・24時間以内に解熱剤を使っていない ・38℃以上の熱は出ていない 	<p>* 38℃以上の発熱がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気がなく機嫌が悪い ・咳で眠れず目覚める ・排尿回数がいつもより減っている ・食欲がなく水分がとれない <p>※熱性痙攣の既往児は37,5℃以上の発熱がある場合は、医師の指示に従う。</p>	<p>* 38℃以上の発熱の有無に関わらず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔色が悪く苦しそうなとき ・小鼻がピクピクして呼吸が速いとき ・意識がはっきりしないとき ・頻繁な嘔吐や下痢があるとき ・不機嫌でぐったりしているとき ・けいれんが5分以上治まらないとき ・3か月未満児で38℃以上の発熱があるとき

◎下痢の時の対応

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の水様便がある ・食事や水分を摂ると下痢がある(一日4回以上の下痢) ・下痢に伴い、体温がいつもより高めである ・朝、排尿がない ・機嫌が悪く、元気がない ・顔色が悪くぐったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染のおそれがないと診断されたとき ・24時間以内に2回以上の水様便がない ・食事、水分を摂っても下痢がない ・発熱が伴わない ・排尿がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や水分を摂ると刺激で下痢をする ・腹痛を伴う下痢がある ・水様便が2回以上みられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がなく、ぐったりしている ・下痢の他に機嫌が悪く食欲がなく発熱や嘔吐、腹痛を伴うとき ・脱水症状と思われるとき ・下痢と一緒に嘔吐 ・水分が摂れない ・くちびるや舌が乾いている ・尿が半日以上出ない(量が少なく色が濃い) ・米のとぎ汁のような白色水様便が数回出る ・血液や粘液、黒っぽい便のとき ・けいれんを起こす

◎嘔吐の時の対応

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の嘔吐がある ・嘔吐と同時に体温がいつもより高めである ・食欲がなく、水分も欲しがらない ・機嫌が悪く元気がない ・顔色が悪くぐったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染のおそれがないと診断されたとき ・24時間以内に2回以上の嘔吐がない ・発熱が見られない ・水分摂取が出来、食欲がある ・機嫌が良く元気である ・顔色が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・咳を伴わない嘔吐がある ・元気がなく機嫌、顔色が悪い ・2回以上の嘔吐があり、水を飲んでも吐く ・吐き気が止まらない ・お腹を痛がる ・下痢を伴う嘔吐がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐の回数が多く顔色が悪いとき ・元気がなく、ぐったりしているとき ・水分が摂取出来ないとき ・血液やコーヒーのかすのような物を吐いたとき ・頻回の下痢や血液の混じった便が出たとき ・発熱、腹痛の症状があつとき ・脱水症状と思われる時 ・尿が半日以上出ない ・落ちくぼんで見える目 ・唇や舌が乾いている ・張りのない皮膚や陰囊

◎咳の時の対応

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> * 前日に発熱がなくても ・夜間しばしば咳の為に起きる ・喘鳴や呼吸困難がある ・呼吸が速い ・37, 5以上の熱を伴っている ・元気がなく機嫌が悪い ・食欲がなく朝食・水分が摂れない ・少し動いただけで咳が出る 	<ul style="list-style-type: none"> * 前日38℃を超える発熱は出ていない ・喘鳴や呼吸困難がない ・続く咳がない ・呼吸が速くない ・37, 5℃以上の熱を伴っていない ・機嫌がよく元気がある ・朝食や水分が摂れている 	<ul style="list-style-type: none"> * 38℃以上の発熱がある ・咳があり眠れない ・ゼイゼイ、ヒューヒュー音がして苦しそうなとき ・少し動いただけでも咳が出る ・咳とともに嘔吐が数回ある 	以下の場合、緊急受診が必要です <ul style="list-style-type: none"> ・ゼイゼイ、ヒューヒュー音がして苦しそうなとき ・犬の遠吠えのような咳が出る ・発熱を伴い(朝は無し)息づかいが荒くなったとき ・顔色が悪く、ぐったりしているとき ・水分が摂取できないとき * 元気だった子どもが突然咳き込み、呼吸が苦しようになったとき

◎発しんの時の対応

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保育中に症状がある時には保護者に連絡し、受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> ・発熱とともに発疹があるとき ・今までになかった発疹が出て、感染症が疑われ、医師より登園を控えるよう指示されたとき ・口内炎の為食事や水分が摂れないとき ・とびひ 顔等で患部を覆えないとき 浸出液が多く他児への感染のおそれがあるとき かゆみが強く手で患部を掻いてしまうとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診の結果、感染のおそれがないと診断されたとき 	<ul style="list-style-type: none"> * 発疹が時間とともに増えたとき ・発熱してから数日後に熱がやや下がるが、24時間以内に再び発熱し赤い発疹が全身に出てきた。熱は一週間位続く(麻疹) ・微熱程度の熱が出た後に、手の平、足の裏、口の中に水疱がでる。膝やおしりに出ることもある(手足口病) ・38℃以上の熱が3～4日続き下がった後、全身に赤い発疹が出てきた(突発性発疹) ・発熱と同時に発疹が出てきた(風疹、溶連菌感染症) ・微熱と両頬にりんごのような紅斑が出てきた(伝染性紅斑) ・水疱状の発疹がある。発熱やかゆみは個人差がある(水痘) * 食物アレルギーによるアナフィラキシー ・食物摂取後に発疹が出現し、その後消化器官や呼吸器に症状が出現した場合は至急受診が必要

11、保育園へのご意見・ご要望・苦情への対応

保育サービスの向上をはかるため、ご意見・ご要望・苦情等のご相談の窓口を設置しています。お気づきの点がございましたら、受付担当者・解決責任者へのご連絡をお願いします。受け付けた場合には、適切に対応し、改善を図るよう努めます。

苦情解決責任者	園長 石飛 昭文	
受付担当者	主任保育士 岡田 真弓	
電話番号	0853-24-1122	
第三者委員	草竹 兼司	0853-81-1151
	寺本 聖	0853-24-1014
運営適正化委員会	0852-32-5913	

* 玄関に「意見・要望・苦情申出用紙」を設置しています。ご使用ください。

12、緊急時における対応及び非常災害対策

保育の提供中に、健康状態の急変、その他の緊急事態が生じたときは、保護者の方があらかじめ指定した緊急連絡先に連絡します。また、嘱託医又は子どもの主治医に相談する等の措置を講じます。保護者の方と連絡が取れない場合には、乳幼児の身体の安全を優先させ、当保育所が責任を持って、しかるべき対応を行います。

非常時の対応	別に定める、消防計画により対応します。																
園舎の耐火構造	耐火建築物																
防災設備	<table border="0"> <tr> <td>・自動火災報知機</td> <td>(有)</td> <td>・誘導灯</td> <td>(有)</td> </tr> <tr> <td>・ガス漏れ報知器</td> <td>(有)</td> <td>・非常警報装置</td> <td>(有)</td> </tr> <tr> <td>・非常用電源</td> <td>(有)</td> <td>・スプリンクラー</td> <td>(有)</td> </tr> <tr> <td colspan="4">・その他、カーテン、敷物、建具等の防災処理</td> </tr> </table>	・自動火災報知機	(有)	・誘導灯	(有)	・ガス漏れ報知器	(有)	・非常警報装置	(有)	・非常用電源	(有)	・スプリンクラー	(有)	・その他、カーテン、敷物、建具等の防災処理			
・自動火災報知機	(有)	・誘導灯	(有)														
・ガス漏れ報知器	(有)	・非常警報装置	(有)														
・非常用電源	(有)	・スプリンクラー	(有)														
・その他、カーテン、敷物、建具等の防災処理																	
避難・消火訓練	避難及び消火の訓練は、毎月1回以上実施します。																
地域防災拠点	塩冶コミュニティーセンター																
広域避難場所	塩冶幼稚園、塩冶小学校、塩冶コミュニティーセンター、島根大学医学部																
その他	神前東児童公園																

■管轄する消防署

消防署名	出雲消防署
所在地	出雲市渡橋町253-1
電話番号	0853-21-6926

■管轄する警察署

警察署名	出雲警察署
所在地	出雲市塩冶有原町2丁目19
電話番号	0853-24-0110

■緊急時の連絡方法について

災害時は

- ・園より保護者の方に一斉メール
- ・保育園入口に掲示
- ・個々の保護者に電話連絡

いずれの可能な手段にて、園児の安否及び避難場所をお知らせします。

* 入園の際に保護者の方のメールアドレスをお預かりします。お預かりした情報は目的以外には使用しませんのでご了承ください。

☆AEDを設置しています。緊急時使用する場合があります。

13、虐待防止・事故防止・安全指導について

■虐待防止

- ・子どもの心身の状態や、家族との態度等に十分注意して観察・情報を収集し、早期発見に努める。
- ・虐待が疑われる場合には子どもの保護と共に園長および関係職員で十分に検討し支援的環境のもとで必要な対応をする。

■事故防止・安全指導

- ・防犯に対する意識を高め、保育園における危機管理体制を作る。
- ・子どもの発達に合わせた安全指導の必要性を認識し、実施する。
- ・家庭や諸機関との協力のもとに交通安全の指導を実施する。
- ・災害時に備えて組織を作り、適宜避難訓練を行う。(定例避難訓練・総合避難訓練)
- ・保育園における安全マニュアルを作成し、常に園内点検・整備を行いながら認識を深め、事故防止に努める。

14、個人情報取り扱いについて

当園では、個人情報の取り扱いについて定められた法令等を遵守するとともに、下記の個人情報保護規程に従って個人情報の重要性を認識しプライバシーに配慮した適切な取扱いをいたします。

【社会福祉法人出雲すみれ福祉会 個人情報保護規程より】

■個人情報の取り扱い

運営上必要な範囲内で、かつ、適正で公正な手段により個人情報を取得します。

(取得方法の例)

- ・入園にあたり、提出いただく書類等にご記入・ご提出いただくことによる取得
- ・お問い合わせへ対応するために電話の内容を記録することによる取得 等

■個人情報の利用目的

取得した個人情報を、次の目的に必要な範囲を超えて利用しません。また、利用目的を変更する場合には、その内容をご本人に通知するか、掲示等により公表します。

- * 日常の保育を実施するにあたって必要な範囲での利用、管理 (利用の例)
 - ・ロッカー、お誕生表、お誕生日カード、連絡帳、下駄箱、おたより等への記名
 - ・児童の健康管理に伴う園の嘱託医、歯科医への情報提供
 - ・在園児保護者に配布する園からのおたより、クラスのおたより等、保育に関する園内書類への掲載等
- * 当法人が取り扱う保育サービスの案内、それに付帯・関連する各種案内、提供および管理
- * 問い合わせ、依頼等への対応
- * その他保護者の皆様との連絡・連携を適切かつ円滑に履行するため利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を取り扱うときは、個人情報保護法第16条第3項各号に掲げる場合を除き、保護者の同意を得るものとします。

■個人データの第三者への提供

以下の場合を除き、保護者の同意なく第三者に個人データを提供しません。

- * 個人情報保護法第16条第3項各号に掲げる場合
- * 当法人の運営遂行上必要な範囲内で、行政機関等に提供する場合

☆個人情報保護法第16条第3項

- 一 法令に基づくとき
- 二 人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
- 三 公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
- 四 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき

15、その他

■独立行政法人日本スポーツ振興センター「災害共済給付制度」の加入

「災害給付制度」は、保育園の管理下(登園中・降園中も入ります)での児童の災害(負傷、疾病、傷害又は死亡)が発生したときに、災害共済給付(医療費・障害見舞金又は死亡見舞金の給付)を行う、互助共済制度です。(保護者様のご負担はありません。)

この制度は、独立行政法人スポーツ振興センター法に基づく公的給付制度のため、次のような特色があります。

☆災害共済給付制度の特色☆

- ・保育園の責任の有無にかかわらず、給付の対象となります。
- ・保育園の責任において提供した食物によるO-157等の食中毒、熱中症や突然死も給付の対象となります。

■賠償責任保険の加入

保険の種類	傷害保険
保険の内容	保育園の責任で起きた事故に対する賠償保険
保険金額	1,040,000 円

● 保育課程 ●

- 保育の理念・・・・・・・・・・「心身ともにたくましい子どもをめざして」児童福祉法第1条に定める児童福祉の理念に基づき運営を行う。 子育ての負担感の緩和を図り、安心して子育て・子育てが出来る環境を整える。
- 保育の目標・・・・・・・・・・
 - ・笑顔を決やさず元気よく友達と遊ぶ子どもを育てる
 - ・思いやりのある子どもを育てる
 - ・個性的な子どもを育てる
 - ・自分のことは自分でする子どもを育てる
 - ・仲間の中で自分の主張をいうことができ、みんなで力を合わせることを大切に子どもを育てる
 - ・自然に目を向けられる子どもを育てる
 - ・感動し、驚き、疑問をもち、考え、表現できる子どもを育てる
- 保育方針・・・・・・・・・・
 - ・保育に関わる者同士が協力したり、それぞれの専門性を発揮しながら、養護と教育の一体的な展開を図り、保育の内容の質を高め、充実させる。
 - ・子どもの主体的な発達要求に応答する環境を豊かに整え、興味関心を持って環境にかかわり、チャレンジしたことへの充実感や満足感を味わわせ、年齢なりの心情、意欲、態度を養う。
 - ・子どもの24時間の生活を視野に入れ、家庭との連携を密にして、積極的に子どもの発達過程に応じた育ちを築き、保護者の共感を得て養育力の向上を支援していく。
 - ・子どもが育つ道筋や生涯教育を見据えた長期的な視野を持って、後伸びの力をつけ、小学校と情報交換をしたり、交流を密にしたりして積極的に連携していく。

	～ 0歳	～ 1歳	～ 2歳	～ 3歳	～ 4歳	～ 5歳	～	
発達過程	◎おおむね6ヶ月未満 ・心身の未熟性 ・著しい身体的成長と感覚の発達 ・首がすわる・寝返り・腹ばい ・表情の変化、体の動き、喃語などによる表現	◎おおむね6ヶ月から1歳3ヶ月未満 ・座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能の発達、手を使うことにより探索活動が活発になる ・特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、やりとりが盛んになる ・特定の大人との愛着関係と人見知り	◎おおむね1歳3ヶ月から2歳未満 ・歩行の開始及び様々な運動機能の発達による行動範囲の拡大 ・イメージを膨らませ見立てるといふ象徴機能の発達と言葉の習得 ・友達や周囲の人への興味や関心の高まり	◎おおむね2歳 ・基本的な運動機能の伸長や指先の機能の発達 ・食事・衣類の着脱・排泄などの発達しようとする ・語彙の増加・自己主張の高まり・自我の育ち ・模倣やごっこ遊びが始まる	◎おおむね3歳 ・基本的な生活習慣の形成 ・話し言葉の基礎の形成、知的興味・関心の高まり ・予想や意図、期待を持った行動	◎おおむね4歳 ・全身のバランス力、体の動きが巧みになる ・自然など身近な環境へのかわり方や遊び方を体得 ・自意識の高まりと葛藤の経験 ・喧嘩が増える	◎おおむね5歳 ・基本的な生活習慣の確立 ・運動遊びをしたり、全身を動かしたりして活発に遊ぶ ・仲間と共に遊ぶ中で規範意識や社会性を体得 ・判断力・認識力の高まりと自主性・自律性の形成	◎おおむね6歳 ・滑らかで巧みな全身運動、意欲旺盛で快活 ・仲間の意志の尊重、役割分担や協同遊びの展開 ・思考力や認識力の高まり、自然・社会事象などへの興味・関心の深まり

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
ねらい・内容	<ul style="list-style-type: none"> ●保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適に生活できるようにする。 ●一人一人の子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ●個人差に応じて授乳や離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。 ●安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。 ●優しく語りかけたり、発声や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。 ●聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚器官や手指の機能の働きを促す。 ●安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促していくようにする。 ・身体発育や健康状態を的確に把握しながら、一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により、清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。 ・おむつが汚れたら、優しく言葉を掛けながらこまめに取り替え、きれいになった心地良さを感じるできるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で、個人差に応じて授乳を行い、一人一人に合わせてミルク以外の味やスプーンから飲むことに慣れるようにし、離乳を進めていく。 ・寝返り、はいはい、お座り、つたい歩き、立つ、歩くなどそれぞれの状態にあった活動を十分に行うとともに、つまむ、たたく、引っぱるなどの手や指を使っての遊びを楽しむ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育士とのやりとりを楽しむ。 ・保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康的で安全な環境づくり、一人一人の子どもの身体の状態を観察し、睡眠など適切な休息を用意し、快適な生活ができるようにする。 ●一人一人の子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ●安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちの芽生えを促す。 ●さまざまな生活、遊びを通して、自由な活動を十分にいき、体を動かすことを楽しむ。 ●身の回りのさまざまな物を自由にいじって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。 ●絵本、玩具などに興味を持って、それらを使った遊びを楽しみ子ども同士のかかわりを持つ。 ●身近な音楽に親しんだり、体の動きを楽しんだりする。 ・一人一人の子どもの生活リズムを大切にしながら、安心して午睡などができ、適切な休息ができるようにする。 ・身体発達や健康状態を把握しながら、一人一人の子どもの生理的欲求を十分に満たし、保育士の愛情豊かな受容により清潔で気持ちの良い生活ができるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークを使って、食事をしたり間食を食べるようにする。 ・一人一人の子どもの排便感覚を知り、おむつが汚れていない時には、便器に誘い、便器での排泄に慣れるようにする。 ・登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っぱるなどの運動を取り入れた遊びや、いじる、たたく、つまむ、転がすなどの手や指を使う遊びを楽しむ。 ・保育士の話しかけを喜んだり、自分から片言でしゃべることを楽しんだりする。 ・保育士と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、絵本を見たりまた、身体を動かしたりして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図るとともに、適切に休息の機会をつくり、集団生活による緊張の緩和を図る。 ●楽しんで食事、間食をとることができるようにする。 ●安心できる保育士との関係のもとで、簡単な身の回りの活動を自分でしようとする意欲を持たせる。 ●保育士と一緒に全身や手指を使う遊びを楽しむ。 ●身の回りのものや、親しみの持てる小動物や植物を見たり、触れたり、保育士から話を聞いたりして、興味や関心を広げる。 ●保育士を仲立ちとして、生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。 ●興味のあることや経験したいことなどを生活や遊びの中で、保育士とともに好きなように表現する。 ・身の回りの清潔や安全の習慣が少しずつ身につくようにする。 ・楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを持たせ、嫌いな物でも少しずつ食べられるようにする。 ・簡単な衣服は一人で脱ぐことができるようになり手伝ってもらいながら一人で着るようにする。 ・戸外遊びや道具で遊ぶ機会を多くして、基礎的な運動機能の発達を図る。 ・身近な小動物、植物、事物に触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などを楽しむ。 ・保育士が仲立ちとなり、言葉のやりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ●食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の身の回りの生活のしかたを身につける。 ●戸外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。 ●身近な人との関わり、友達と遊ぶことを楽しむ。 ●身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、生活を広げていく。 ●生活に必要な言葉がある程度わかり、したいこと、してほしいことを言葉で表す。 ●様々なものを見たり、触れたりして、おもしろさ美しさなどに気づき感性を豊かに持つ。 ●感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、身体を動かしたりして、自由に表現しようとする。 ・保育士に様々な欲求を受け止めてもらい、保育士に親しみをもち、安心感を持って生活する。 ・食事、排泄、睡眠、休息など生理的欲求が適切に満たされ、快適な生活や遊びをする。 ・戸外で十分に体を動かしたり、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ・身近な人々の生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。 ・身近な動植物や自然事象をよく見たり、触れたりなどして、親しみや愛情を持つ。 ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育士や友達と言葉のやりとりを楽しむ。 ・様々な素材や用具を使って、造形を楽しむ。 ・動物や乗り物などの動きをまねて身体で表現することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ●自分でできることに喜びを持ちながら、健康安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。 ●保育士や友達とのつながりを広げ、集団で活動することを楽しむ。 ●身近な環境に興味を持ち、自分から関わり、身の回りの事物や数、量、形などに関心を持つ。 ●人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして言葉で伝える楽しさを味わう。 ●感じたことや思ったこと、想像したことなど様々な方法で自由に表現する。 ・自分の気持ちや考えを安心して話すなど情緒の安定した生活ができるようになる。 ・友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気づき、守ろうとする。 ・自然や身近な事物、事象に触れ、驚いたり、感動したりして興味や関心を深める。 ・具体的な物を通して、数や量などに関心を持ち簡単な数の範囲で数えたり、比べたりすることを楽しむ。 ・日常生活に必要な挨拶をし、友達との会話を楽しむ。 ・童話、絵本、視聴覚教材などを見たり、聞いたりにイメージを広げ描いたり、作ったり、様々な表現して遊ぶ。 ・年下の子どもに親しみ思いやりの気持ちを持つたり、身近な人にいたわりの気持ちを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康、安全に必要な基本的な習慣や自主強調の態度を身につけ、理解して行動できるようにする。 ●様々な遊具、用具を使い集団遊びや、やや複雑な行動を行うなど様々な遊びを楽しむ。 ●身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。 ●絵本や童話、視聴覚教材などを見たり、聞いたりにして、様々なイメージを広げるとともに言葉に対する感性が豊かになる。 ●感じたことや思ったこと、想像したことなど工夫して、目標を持っているいろいろな方法で表現する。 ・健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度が身に付き、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようになる。 ・保育士との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すなど、情緒の安定した生活をする。 ・食事の仕方やマナーが身に付き、体と食物の関係に関心を持つ。 ・人の話を注意して聞き、相手にも分かるように話す。 ・感じたこと、想像したことを言葉や体、音楽造形などで自由に表現したりして楽しむ。 ・異年齢の子どもとの関わりを深め愛情を持ったり身近な人に感謝の気持ちを持つ。

保育士の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体質、発達、家庭環境などをよく理解し、適切に対応できるよう個別に保育を進めていく。 ・保健的で安全な環境を整え、子どもの様々な欲求を満たすようにし、信頼関係を築くようにする。 ・食事、排泄などへの対応は、一人一人の子どもの発達状態に応じて無理のないように行うようにする。 ・玩具などの色彩や音色、形、感触などに留意し、耳、目の感覚機能が発達するような働きかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症にかかることが多いので、身体の状態、機嫌、食欲、表情などにも十分注意し、観察を行う。 ・一人一人の子どもの状態に応じ、無理に食べさせないようにし嘔むことの大切さが身に付くように配慮する。 ・歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、探索活動が活発になるので、安全性に十分に配慮した環境を心がける。 ・子どもの自己主張を尊重しながら、保育士の優しい語りかけなどによりお互いの存在に気づくように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な基本的な生活習慣の形成にあつては、落ち着いた雰囲気の中で自分でしようとする気持ちを育てるように配慮する。 ・戸外遊びや遊具で遊ぶ機会を多くし、自主性に応じて遊べるように工夫する。 ・子ども同士の自己主張のぶつかり合いを受容し友達とのかかわりの仲立ちとなる。 ・子どもの発想に共感し、模倣活動や言語活動を楽しく盛り上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の状況を把握し、必要に応じて援助しながら自分でしようとする意欲を育てていくようにする。 ・友達や身近な人と親しみ、かかわりが深めるよう援助する。 ・身近なものに直接触れるなど探索意欲を十分に満足させ、驚いたり感動したりする経験が広がり、思ったことや感じたことを伸び伸びと表現できるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもと保育士の信頼関係に基づき、日常生活の実体験の中で基本的習慣が身につくようにする。 ・新しい体験に対する興味関心を引き出して、挑戦しようとする意欲を持つように配慮する。 ・子どものイメージがわき出るような素材、玩具用具などを十分に用意して、伸び伸びと表現できるように配慮する。
--------	---	---	--	---	---

家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いをしっかり受け止め、子どもの様子を伝え合い、子育てを話し合うことで信頼関係、協力関係を築いていく。 ・保育園における子どもの生活、健康状態、事故の発生などについて、家庭と密接な連絡ができるように体制を整えておく。 ・保育士は保護者に対して、子どもを対象とした地域の保健活動に積極的に参加することを指導するとともに、地域の保健福祉に関する情報の提供をする。 ・保護者の余裕のある時に保育参観をしてもらい、子どもの思いに気づいたり、保育士の援助の仕方を知ったりして子どもと関わる経験をしてもらう。 ・保護者や、地域の子育て中の保護者が、保育園の行事に参加することで、子どもに関する関心が芽生え、親子で触れ合う楽しさを知ったり、保護者同士のつながりが深まるように援助していく。
--------	--